

京都市美術館開館90周年記念展
竹内栖鳳 破壊と創生のエネルギー
2023年10月7日(土)～12月3日(日)

このたび、京都市京セラ美術館では、開館90周年を記念して特別展「京都市美術館開館90周年記念展「竹内栖鳳 破壊と創生のエネルギー」を開催します。

竹内栖鳳は、近代京都の日本画界に最も大きな影響を与えた画家です。画壇革新を目指した明治期には、旧習を脱却した新たな日本画表現を模索し、西洋にも渡りました。技術が円熟に達した大正・昭和期には、画壇の重鎮として、第一線で活躍しながら多くの弟子を育成したことも知られています。「写生」を重要視しながら、抜群の筆力で生き生きとした作品を生み出し、圧倒的な求心力で画壇をリードして、近代京都日本画の礎を作りました。現在では巨匠として多くに知られる存在ですが、そこへ至るためには、古い常識を破壊し、新たな地平を創生するエネルギーが不可欠だったのです。

本展では、当館所蔵の重要文化財《絵になる最初》をはじめ、若手時代から円熟期まで、栖鳳の代表作を集めて展示し、一堂にその画業を振り返ります。栖鳳の挑戦をより明らかにするため、本画に加え、制作にまつわる写生や下絵、古画の模写など、様々な資料もあわせてご覧いただけます。作品約130点で栖鳳の奮闘を余すところなく振り返る、大規模回顧展です。

会期：2023年10月7日(土)～12月3日(日)

前期：10月7日(土)～11月5日(日)

後期：11月7日(火)～12月3日(日)

会場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階

開館時間：10:00～18:00(最終入場は17:30)

休館日：月曜日(祝日の場合は開館)

料金：一般：1,800(1,600)円

大学・高校生：1,300(1,100)円

中学生以下無料

※()内は前売、20名以上の団体料金

※京都市内に在住・通学の高校生は無料

※障害者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料

(学生証、障害者手帳等確認できるものをご持参ください)

主催：京都市、京都新聞、ライブエグザム、BSフジ、日本経済新聞社

協力：株式会社サンエムカラー

前売券発売日：2023年7月24日(月)

美術館公式オンラインチケット、チケットぴあ(Pコード：686-583)、ローソンチ

ケット(Lコード：54609)、セブンチケット(セブンコード：102-038)ほか主要プ

レイガイドなど



《アレタ立に》1909年
高島屋史料館蔵
前期展示

本展のみどころ

1. 京都日本画の絶対王者、竹内栖鳳の生涯がひとめでわかる大回顧展

明治から昭和まで、京都画壇の中心であり続け、巨星として多くの人に愛された栖鳳の作品が一堂に会します。若くして実力が評価され、頭角を現した初期、新機軸の日本画を求め、伝統の意味を問い続けながら革新的であろうとした中期、自然と向き合い、誰にも追従させない筆力で生命力を表現した後期まで、時代順に展示。栖鳳の技術の発展、表現の推移、挑戦の軌跡がたどれる内容です。栖鳳の大規模個展が京都で行われるのは、10年ぶりです（今回は2013年に京都市美術館で開催）。

2. 新発見作品を初公開！

新発見となる《羅馬遺跡図》（1903年）を本邦初公開！イタリア、ローマの遺跡を描いたとされる貴重な作品で、栖鳳が渡欧した体験を反映したものです。

3. 貴重な写生、下絵を多く展示

京都市京セラ美術館には、写生、下絵など貴重な資料類が多く所蔵されています。栖鳳が最も重要視した「写生」の秘密は、ここに詰まっています。栖鳳が世界を見つめたまなざしや、ものの考え方、制作姿勢を紐解きます。下絵にもまた、下絵ならではの生き生きとした線が見られ、動物画などを得意とした栖鳳の本領が発揮されています。

4. 栖鳳の青年期にも着目

本展では、これまであまり注目されてこなかった、栖鳳の青年期作品にも焦点をあてます。今は大御所として知られる栖鳳が、若い頃に感じた苦悩や新表現への執念、受けた批判などを作品とともに振り返り、「大御所栖鳳」が生まれるまでの人生をドラマティックにたどります。



《羅馬遺跡図》1903年
通期展示

作家紹介

竹内栖鳳（たけうち・せいほう）1864-1942

京都に生まれる。本名恒吉。幸野樺嶺に師事し門下の四天王の一人に数えられる。1900年、パリ万博視察に渡欧した。文展開設当初から活躍、大正期には帝室技芸員、帝国芸術院会員となり、二度中国にも赴く。西洋画を含め諸派の表現を融合し京都日本画の近代化を牽引するとともに、写生にもとづく自然への視点、省筆の鮮やかさに独自の境地を拓いた。京都市立絵画専門学校、画塾竹杖会で多数の俊英を育てた。第1回文化勲章受章。



主な出品作品

通期展示



《夏鹿》1936年 MOA美術館蔵



《清閑》1935年頃 京都市美術館蔵



《闘合》1926年

前期展示



《象図》1904年頃 *10/7~11/19のみ展示



《ベニスの月》1904年 高島屋史料館蔵



《潮沙永日》1922年 京都市美術館蔵



《金獅》1901年頃 株式会社ボックス蔵
*10/7~11/12のみ展示

後期展示



《羅馬之図》1903年 海の見える杜美術館蔵 *11/21～12/3のみ展示



《虎・獅子図》1901年 三重県立美術館蔵



関連プログラム

会場：京都市京セラ美術館地下1階講演室
 (ギャラリートークは展示室内)
 料金：無料(予約不要、先着順、要本展観覧券)

講演会「栖鳳の芸術について」

日時：2023年10月14日(土) 14:00～15:30

講師：平野重光(美術史家、元京都市美術館学芸課長)

講演会「竹内栖鳳、京都画壇にあらわる」

日時：2023年11月5日(日) 14:00～15:30

講師：森光彦(京都市京セラ美術館学芸員)

日本画の破壊と創生はいかにしてなされたか。

本展担当学芸員が、竹内栖鳳が京都画壇に残した足跡を名品とともに解説します。

クロストーク「わたしたちの好きな栖鳳」

日時：2023年11月18日(土) 13:00～14:30

登壇：定家亜由子(日本画家)、福田季生(日本画家)

京都を拠点に活動する80年代生まれの二人が、栖鳳の魅力を語ります。

当館学芸員によるギャラリートーク

日時：2023年10月28日(土)、11月25日(土) 14:00～15:00



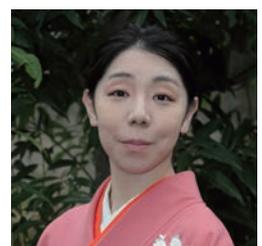
《観花》1897年 海の見える杜美術館蔵 後期展示



重要文化財 《絵になる最初》1913年 京都市美術館蔵 後期展示



定家亜由子



福田季生

展覧会図録

展覧会出品作写真をカラーで掲載。栖鳳の生涯と代表作が一冊で分かる決定版図録。緻密な研究に基づく論文のほか、日本画鑑賞の初心者にも分かりやすく栖鳳の画業を説明するコラムを収録。迫力があり、リアルで雄大、時にかわいらしい、栖鳳作品の魅力が詰まった図録です。

論考執筆者：平野重光、廣田孝（京都女子大学名誉教授）、森光彦、後藤結美子（京都市京セラ美術館（京都市美術館）学芸係長）

編集：京都市京セラ美術館（京都市美術館）学芸課

ページ数：224ページ（予定）

判型：B5変型 言語：日本語 価格：未定

発売日：2023年10月7日（土）（予定）

発行：青幻社

音声ガイド

今注目のボーカル・グループ「Le Velvets」の佐賀龍彦さんとクラシック系YouTuberとしても話題のピアニストの石井琢磨さんがナビゲーターとして本展をご案内します。

貸出価格：600円（税込）

テーマ曲

石井琢磨さんによる美しい調べが本展を彩ります。



佐賀龍彦



石井琢磨 ©Andrej Grlic

F.クライスラー「愛の悲しみ」（編：S.ラフマニノフ）

演奏：石井琢磨（ピアノ）



石井琢磨 アルバム『Szene』に収録

2023.8.26 eplus musicよりリリース

（品番：em-0030、em-0031）

【広報画像申請フォーム】

<https://forms.gle/sHqgtXZ56Rf4tWoS9>から必要事項を記入の上申請ください。

即時ダウンロードリンクを発行します。

【本展のプレス問合せ先】

京都市京セラ美術館 広報 勝冶・川口・平野

pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271

当館を表記いただく際は、略さず「京都市京セラ美術館」と明記ください。